

(なごや生きもの一斉調査幹事・名古屋昆虫同好会会長) 間野 隆裕

はじめに

日本自然保護協会では 2008 年にカマキリの一斉調査が行われました。愛知県、特に名古屋市ではほとんど参加者がありませんでした。また、それ以外にもカマキリの調査を実施されたことはなく、これまで名古屋市内のどこにどのようなカマキリが生息しているか不明のままです。また、近年外来種と思われるカマキリが発見され、陸上生態系に大きな影響が出てくる可能性が指摘されています。生き物の世界は人間社会と同様、めまぐるしく変化をしています。そこで、今回、名古屋市内のカマキリ一斉調査を実施し、現在の生息状況を記録したいと考えました。

主な活動内容

実施団体 なごや生物多様性保全活動協議会、なごや生物多様性センター、名古屋市内の各種自然関係（保全）団体及び個人

モットー

楽しく、有意義に、ちょっぴり学ぶ

実施内容

1) リーダー研修：9月25日（金）・9月26日（土）

参加人数：66名

2) 一斉調査：10月2日（金）・10月3日（土）・
10月4日（日）・10月5日（月）

参加人数：のべ503名

調査地点：96地点（図1）

千種区 18 地点、緑区 13 地点、
守山区 11 地点、天白区 9 地点、
名東・中村区 6 地点、
港・南・瑞穂区 5 地点、
中川区 4 地点、
熱田・西区 3 地点、
東・北・中・昭和区 2 地点

3) 標本作製会：10月10日（土）

参加人数：38名

4) 中間報告会：11月3日（火祝）

参加人数：116名



図1. 調査地点

調査結果概要

今回の調査では、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、ムネアカハラビロカマキリ、ココマキリの5種が記録されました(図2)。個体数では、オオカマキリが最も多く確認され、次いでチョウセンカマキリで、ムネアカハラビロカマキリが24個体と最も少ないものでした。



図2. カマキリの成体

表1. 種別記録個体(卵鞘)数

種	成虫	♂	♀	不明	卵鞘	計
オオカマキリ	201	91	106	4	60	261
チョウセンカマキリ	64	30	33	1	3	67
ハラビロカマキリ	48	8	36	4	11	59
ムネアカハラビロカマキリ	23	14	6	3	1	24
ココマキリ	53	26	18	9	2	55
計	389	169	199	21	77	466

表2. 種別記録地点数

種	成虫	卵鞘		総(未)確認地点	個数/地点
オオカマキリ	56	23	内4ヵ所卵鞘のみ	60	4.4
チョウセンカマキリ	19	2	内2ヵ所卵鞘のみ	21	3.2
ハラビロカマキリ	28	6	内3ヵ所とも卵鞘のみ	31	1.9
ムネアカハラビロカマキリ	3	1		3	8.0
ココマキリ	28	2	内1ヵ所卵鞘のみ	29	1.9
未確認地点	23	66		21	

性別不明個体が予想以上に少なかったのは、リーダーの皆さんが、区別できるように事前準備をされた賜と考えます。個体数では、オオカマキリが最も多く確認され、次いでチョウセンカマキリで、ムネアカハラビロカマキリが24個体と最も少ないものでした。確認地点数でもオオカマキリの60地点が最も多く、ムネアカハラビロカマキリが最も少ないものでした。ただ、地点あたりの個数を見ると、ムネアカハラビロカマキリが圧倒的に多くなっています。もともと、この3地点だけよく見つける優秀な調査員が調査されたということもあるかもしれませんが、それなら他のカマキリもその場所では多くなるはずが、そうなっていません。これはムネアカハラビロカマキリが生息するようになると、急激に増えるということを示しているのかもしれませんが。

なごや生きもの一斉調査 ～カマキリ編～

種別確認地点は図3～7のようになりました。またカマキリ未記録地点は図8のようになりました。

今回の調査地点は、自然環境の良好な地点や人為的環境の色濃い地点など、極めて多様な環境となっており、その調査範囲も様々です。また1地点の調査員数や年齢、カマキリ発見の熟練度も異なっていました。そのため調査地点間の調査精度は全く異なります。また1回の調査でその地点に生息するカマキリの全種を記録することは不可能に近いものです。たとえば、外来種であるムネアカハラビロカマキリについて見ると、今回の一斉調査で3地点記録されましたが、これ以前の市民からの報告によると、今回の確認地点である守山区森林公園を含む6地点で記録されています(図7)。



【間野隆裕 1004 東山の森】

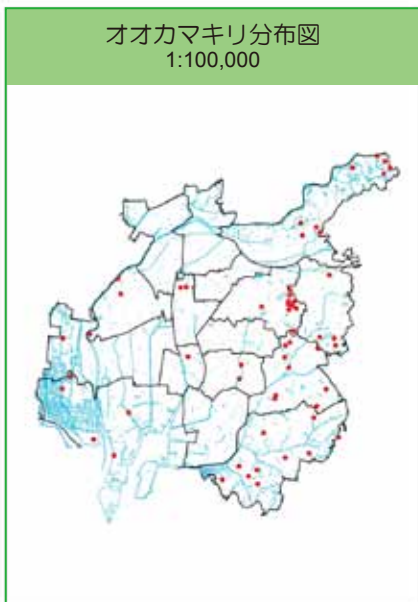


図3. オオカマキリ記録地点



図4. チョウセンカマキリ記録地点



図5. ハラビロカマキリ記録地点



図6. コカマキリ記録地点
(図中●は市民からの事前報告記録地点)



図7. ムネアカハラビロカマキリ記録地点
(図中●は市民からの事前報告記録地点)

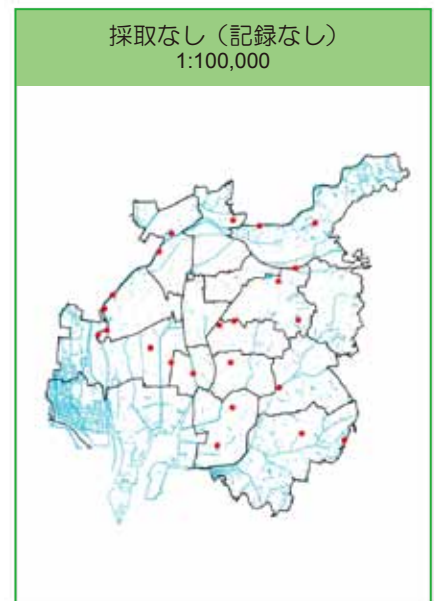


図8. カマキリ未記録地点

結果と今後について

今回、地元の多くの人の協力で、空前の規模の調査が実施できた事がまず一番の成果であると考えます。その結果名古屋市内におけるカマキリの分布状況について、ある程度の傾向をつかむことができました。また人的ネットワーク構築の一助となった事も大きいです。さらに、アンケート結果からは、比較的楽しく実施でき、自然の生き物を身近に感じ、見直すきっかけとなったことも成果と考えます。この陰には、当日多くの配慮の下実施されたリーダーの貢献が絶大でした。

今後はさらなる分布記録の集積をしつつ、生息動向を把握しなくてはいけなく、外来種であるムネアカハラビロカマキリについては、特に注意する必要があると考えます。

